

内閣府知的財産戦略本部 『地域価値と知財戦略』ワーキンググループ第3回会合 3月17日発表

地域発・産学連携オープンイノベーション推進活動

~中部地方・広島大学の取り組みの成果・課題と展望~

OPEN INNOVATION & IMPACT CURATION = REGIONAL BUSINESS BLOOM

日下部裕美子 (くさかべ ゆみこ)

株式会社 Impact Access 代表取締役 CEO

東海東京証券CSR 事業『中部オープンイノベーションカレッジ』ディレクター

広島大学オープンイノベーション事業本部 グローバル・クリエイティブ・アドバイザー (GCA)

地域発オープンイノベーション推進戦略と取り組み、地方大学の課題と今後の展望

<発表アウトライン>

I. 自己紹介：別紙略歴参照

II. 今回の報告趣旨と問題意識：調査方法：全て地域の専門家の方々からのヒアリングに基づく内容。

<ヒアリング対象者紹介>

- 河野 廉氏 名古屋大学 産学連携推進本部 教授 (TONGALI プロジェクト推進主導)
- 牧野 隆広氏 株式会社ミライプロジェクト代表取締役
- 阿部 剛久氏 東海東京インベストメント (株) 常務執行役員投資部長 中部ニュービジネス協議会理事
- 串岡 勝明氏 広島大学 学術・社会連携室 特任教授 (元広島県庁)
- 佐藤 寿氏 広島大学 OI 事業本部 統括クリエイティブマネジャー
- 安枝 太氏 広島大学 OI 事業本部 副統括クリエイティブマネジャー

<中部地方、広島の現状・課題・対比>

*中部地方：強み・特徴：ノーベル賞を輩出している名大の技術シーズ多く、産学連携のイニシアティブ多く、起業家育成も活性化しつつあり、エコシステムの中に大企業も多く、ものづくりクラスター。技術・人材・資金・産業に恵まれている傾向。若手学生の間で起業家志向も増えている。

課題：自動車産業が歴史的に強いものづくりクラスター地域であるがゆえの変革の必要、自動車産業の下請け構造変化の過程で、Tier 3 以下のサプライヤーなどの経営者にもっと新規事業分野への関心を持ってもらうための施策、意識改革が必要、オープンイノベーションの必要性。

*広島大学：強み・特徴：ゲノム・デジタルものづくり・感性の脳科学などの先端技術シーズ多く、OPERAや文科省・自治体プログラムで企業との連携コンソーシアムも複数運営。湯崎知事の経験値、串岡氏、OI事業本部チームなどの経験豊富な「プロデューサー」、国際的な専門家チームの存在。

課題：人材・予算が非常に少ない中での創意工夫、「アウター」ビジネス支援チームの移住・専門家のプロジェクトチーム編成。特徴のあるプログラム目指す。スケールするには更にビジネス人材活動予算必要。

- III. 中部オープンイノベーションカレッジの目的・活動紹介、成果と課題、今後の展開。名大 TONGALI プラットフォーム・中部地方のものづくりクラスター構想、中部特有の課題と展望

- IV. 広島大学の先端シーズとオープンイノベーション活動の紹介
 - 1. 広島大学の3つの先端技術コンソーシアム (ゲノム編集、デジタルものづくり、感性の脳科学)
 - 2. ビジネス人材チームによる大学シーズ事業化支援事例：
山本卓先生の先端技術ゲノムベンチャーPtBio の海外ライセンス交渉支援のケース (現状と課題)
 - 3. デジタルものづくり教育研究プラットフォーム with マツダ (広島の産学連携ベストプラクティス事例)
 - 4. 現状の取り組みの特色と課題・悩ましい点・広島 OI チームからの問題定義

- V. 結論・考察：新しい解決策の視点・案・課題定義など
 - 1. 地方で立地を不利にしない方策：デジタル化、リモート支援・バーチャル専門家チーム組成
 - 2. 産学連携・事業化プロジェクトチームの組成の仕方・効果的な「プロデューサー」の役割
 - 3. オープンイノベーションを促進するコンソーシアムの組成のコツ・ノウハウとは？
 - 4. 公的支援の観点：ターゲット別に公的支援方法を変えるやり方
 - 5. 「アウター」の専門人材を如何に効果的に活用するか？
 - 6. 垂直型プロジェクトチーム vs 水平型プロジェクトチーム
 - 7. 大学の先端技術シーズの事業化に際した組織論的・Organizational Behaviorの観点